

# 全国都市緑化あいちフェア 基本構想（案）

平成 25 年 3 月  
愛知県

## 目次

<b>1. 全国都市緑化フェアの動向と方向性</b> .....	1
<b>2. 全国都市緑化フェアの開催の背景</b> .....	2
2-1. 『緑』の都市づくり（全国的な背景） .....	2
2-2. 愛知県で取り組む背景 .....	3
2-3. 2015年に開催する背景 .....	4
<b>3. 愛知県における全国都市緑化フェア開催の統一主題等（実施要領第2条）</b> .....	5
3-1. 全国都市緑化フェアの統一開催テーマ .....	5
3-2. 愛知県都市緑化フェアの統一主題（実施要綱第6条） .....	5
3-3. 開催の基本方針 .....	6
<b>4. 全国都市緑化あいちフェアの基本的事項</b> .....	7
4-1. 主催者等 .....	7
4-2. 開催期間 .....	7
4-3. 会場構成 .....	7
4-4. 入場方式 .....	8
4-5. 目標入場者数 .....	8
4-6. その他基本的事項 .....	8
<b>5. 事業推進計画</b> .....	9
5-1. 事業推進の基本的な考え方 .....	9
5-2. フェアを支える参加・協働の基本スタイル .....	9
5-3. 事業推進体制 .....	10
5-4. 協賛計画 .....	10
<b>6. 協働推進計画</b> .....	11
6-1. 計画の基本構成 .....	11
6-2. 基本的な考え方 .....	12
6-3. 協働運営計画 .....	13
6-4. 県民参加運営計画 .....	15
6-5. 担い手づくり計画 .....	17
<b>7. 会場計画</b> .....	18
7-1. メイン会場の概況 .....	18
7-2. 計画の基本構成 .....	19
7-3. 基本的な考え方 .....	19
7-4. ランドスケープ計画 .....	20
7-5. 展示計画 .....	26
7-6. 植物調達計画 .....	28
<b>8. 会場運営計画</b> .....	29
8-1. 計画の基本構成 .....	29
8-2. 運営管理計画 .....	29
8-3. 交通輸送計画 .....	31
8-4. 営業参加計画 .....	32
<b>9. 観客誘致計画</b> .....	33
9-1. 計画の基本構成 .....	33
9-2. 観客誘致計画 .....	33
9-3. 広報宣伝計画 .....	34
9-4. 行催事計画 .....	36
<b>10. 事業計画</b> .....	37
10-1. 事業スケジュール .....	37

## 1. 全国都市緑化フェアの動向と方向性

全国都市緑化フェアは、都市緑化意識の高揚、都市緑化に関する知識の普及等を図ることにより、国、地方公共団体及び民間の協力による都市緑化を全国的に推進し、もって緑豊かな潤いのある都市づくりに寄与することを目的としている（全国都市緑化フェア開催要綱第1条）。

全国都市緑化フェアは、ドイツで環境整備と国民意識の高揚に効果的であったガーデンショー（1951年から2年に一度、国内諸都市の持ち回りで開催、2011年は4月～10月の期間コブレンツで行われた）やオランダの園芸博覧会（フロリアード、2012年は4月～10月にフェンロー市で開催）を参考にスタートし、昭和58年（1983年）に大阪府で第1回全国都市緑化フェアが開催され、平成27年（2015年）に予定される愛知県開催は第32回目を迎えることになる。

当初は、地方博覧会として事業展開し、その結果、都市緑化の推進と公園整備の促進が図られることが成果として期待された。しかし、近年の社会経済情勢の変化により開催形態が多様化するとともに事業規模もコンパクト化し、既存の公園等を主会場に活用した全国規模の緑化イベントという性格が強くなっている。フェアの開催方針も、まちづくりとの連携強化、地球環境問題の啓発、市民参画社会の推進等、より幅広く重要な課題への対応を掲げる方向へと変化してきた。さらには、逼迫する地方財政の中で、より効果的で効率的なフェア事業が求められるとともに、多様な主体の参加、事業成果の継続性等の多元的観点からのフェア事業の展開が必要となっている。

これらの背景により、フェア会場の構成や主会場の演出についても、10年前までは主流であった草花の装飾展示から、緑の効用を伝える主張を持った多角的な緑のイベントへと変わる兆しもある。（2012年東京都の「緑の風がふきぬける東京」をテーマとし、まちなか等の会場ネットワークを強化した多会場での開催、2013年鳥取市の地域の風土、自然を見直し、地域の緑化スタイルとして発信、浸透を目指すナチュラルガーデンの展開）こうした動向を見通しながら、全国に開催のテーマをきっちりと情報発信する都市緑化フェアとして開催していく必要がある。

全国都市緑化フェアは、ものづくりや草花修景主体の従来の「鑑賞するみどりのフェア」を第1段階とすると、人づくりとまちづくりにつながる「参加するみどりのフェア」という第2段階を経由して、今後は第3段階として、暮らしの中での人と緑との親和関係をより一層強化し「持続するみどりのフェア」へと進化していくことが望まれる。

## 2. 全国都市緑化フェアの開催の背景

### 2-1. 『緑』の都市づくり（全国的な背景）

「緑」は、環境保全、景観形成、レクリエーション空間の提供、防災・減災など、多くの公益的機能を持っている。近年では地球温暖化の防止、ヒートアイランド現象の緩和、生物多様性の保全など、地球規模の環境問題においても、その役割が注目されている。

さらに「緑」は、2011年3月11日に起こった東日本大震災でも、津波からの避難地、残った樹木による被災者の心の癒しなど、その多様な力で、安心の拠り所、頼れる存在として、緑の持つ機能や役割だけでなく人々にとって大きく、「大切な存在」であることが改めて確認された。

「緑」と「暮らし」とのかかわりを見ると、植木いじり、ベランダ菜園や玄関先のプランター花壇づくり、あるいは家周りの道路の落ち葉拾いなど、花や緑を育てること、関わることは当事者にとっては面倒ではあるけれど心が安らぐ効果がある。それ加えて、周りの人も含めてみんな心が晴れやかになり笑顔になる、近所の人達と親しく言葉を交わして地域に交流が生まれる、といったまちやコミュニティが元気になるという効用をもたらす。

「まちづくりは緑化から」といわれるように、緑化が有するソーシャル・キャピタル（社会関係資本）の拡大効果も、信頼関係が希薄でとげとげしいといわれる現代の地域社会や都市空間に強く求められているものでもある。

このように「緑」は、環境を改善するという物理的な効用とともに、人の心を安らげ癒す内面的効用、コミュニティが健康になる社会的効用をも有している。

愛知県においても、この多様な効用をもつ「緑」を量的に増やし、その質を高める公共や市民協働による都市緑化の取り組みがこれからの都市づくりにとって求められている。

## 2-2. 愛知県で取り組む背景

愛知県は、自動車関連産業等を中心とした製造品出荷額は34年連続全国一（平成22年工業統計調査）のモノづくり県であると同時に農業県でもあり、中でも花き産業は50年間も生産額全国一を続けている。

しかし、社会経済情勢の大きな変化による県下の経済環境の悪化に伴い、全国一を誇る花卉産業においても、花き生産出荷額が平成10年頃をピークに漸減傾向が続くなど需要が低迷し、新たなマーケット開拓が重要視されている。

「緑」との関わりで見ると、いにしえより自然と暮らしが共存する豊かな風土であった愛知県は、今も、県土の43%、約22万haが森林で、うち約5万ha、県土の1割が、人との関わりが深い落葉広葉樹を中心とした里山を有している。

しかし近年は、都市計画区域内での森林の減少、都市近郊の里山の荒廃、市街化区域内での緑被地の減少が進行し、県全体の都市公園整備水準も全国平均を下回っていることから、緑地保全と質の向上、および都市緑化の推進が、県政の大きな課題の一つとなっている。

このことから、平成23年11月、愛知県広域緑地計画の改定を行い、「都市と自然が調和した環境にやさしいあいちの緑づくり」を理念として、環境、安全、活力、生活の各分野における具体的な施策の取り組みをスタートした。さらに、同計画において、「環境首都」にふさわしい重要かつ緊急性の高い緑の取り組みとして、「あいち森と緑づくり事業」等の展開による民有地緑化の推進、生物多様性に配慮した水と緑のネットワークの形成、環境学習の推進などのリーディングプロジェクトを設定している。

愛知県における全国都市緑化フェアの開催は、県政の課題解決につながる緑の総合的な取り組みの推進力となるものであり、愛知県広域緑地計画の理念である「都市と自然が調和した環境にやさしいあいちの緑づくり」を実現することが期待される。

## 2-3. 2015 年に開催する背景

愛知県は 2005 年、21 世紀になって初めての国際博覧会を開催し、「自然の叡智」をメインテーマに世界から多くの人々を迎い入れ、様々な感動を与えた。そして 2010 年には生物多様性条約締約国会議（COP10）の開催地となり、環境先進県としての国際的評価を得た。さらに今後も、2013 年あいちトリエンナーレ、2014 年持続発展教育（ESD）に関するユネスコ世界会議、が愛知県下で開催され、また同年、技能五輪・アビリンピックあいち大会の開催が決定するなど各種の大規模イベントが連続して開かれる。

愛知万博から 10 年の節目となる 2015 年に、里山の緑にあふれた愛・地球博記念公園を主会場に全国都市緑化フェアを開催することは、「自然の叡智」というメインテーマ、および「宇宙・生命と情報」「人生の“わざ”と知恵」「循環型社会」の 3 つのサブテーマのもとに取り組みられた成果が、「緑」の分野においてどのように継承されてきたかを発信する機会となることに大きな意味がある。

さらにその中で最も重要なことは、多くの関係事業を通じて、主として市民生活の局面で環境に優しく健康で文化的な「緑」のある暮らしが、ライフスタイルとしてどのように進展し定着しているかをはかり知ること、同時に、その良好な成果を広く内外に、具体的に情報発信していくところにある。

そして、地球環境の時代の緑化意識を高め、緑化技術を開発・普及する全国都市緑化フェアは、愛知万博の成果を具体的に県民が共有化する重要なステップとなることが期待される。

### 3. 愛知県における全国都市緑化フェア開催の統一主題等（実施要領第2条）

#### 3-1. 全国都市緑化フェアの統一開催テーマ

『 緑豊かな街づくり

～窓辺に花を・くらしに緑を・街に緑を・明日の緑をいまつくろう～ 』

#### 3-2. 愛知県都市緑化フェアの統一主題（実施要綱第6条）

### 緑のある暮らしの明日を愛知から

【緑を愛し、緑のチカラを知る 全国都市緑化 愛・知 フェア】

#### <基本理念>

「自然の叡智」を知り、持続可能な社会への変革へ向けて歩み始めた2005年の愛・地球博。そして5年後の2010年秋、里山自然の豊かな愛知県で生物多様性条約締約国会議（COP10）が開かれ、日本が提唱したSATOYAMAイニシアティブの推進のための決定が採択された。さらに、持続発展教育（ESD）に関するユネスコ世界会議が行われる愛知県において、2015年秋、愛・地球博記念公園をメイン会場に「緑豊かな街づくり」をテーマとする全国都市緑化フェアが開催される。

緑は、無機物を有機物に変え、そして食物や住まいなどさまざまな資源として、生きとし生けるもの活動の源となる。

緑はまた、環境保全、景観形成、レクリエーション空間の提供、防災・減災さらには地球温暖化の防止、ヒートアイランド現象の緩和、生物多様性の保全など、都市環境を良くし、私たちの生活に安らぎやうおいを与えてくれる。

そして緑は、暮らしの中で笑顔や元気、交流をもたらすかけがえのない存在である。

私たちはこのフェアで、今一度、緑と共に生きることの原点に戻り、緑のある暮らしを思い浮かべる必要がある。

第32回を迎える愛知県の全国都市緑化フェアは、来場者はもとより広く全国の人々に、もっと「緑」を愛し、もっと「緑」の力を知ってもらい、愛・知・緑化フェアとして開催する。

そして、「愛知万博からの10年」を踏まえ、「自然の叡智」というテーマや成果が暮らしの中の「緑」にどう浸透したかを発信するフェアとするとともに、緑の力の「見える化」等により、緑のある暮らしのすばらしさが実感・体感さらには体得出来るフェアとする。

さらに、これからの緑のまちづくりに欠かすことのできない県民協働をフェアの中で積極的に推進し、フェアが一過性の効果で終わらずに時間的・空間的に連続し、緑のまちづくりとして持続継続することを目指す。

### 3-3. 基本方針

愛知県らしい発信力をもった全国都市緑化フェアの開催を目指すとともに、事業運営、協働体制づくり、会場計画等、新たなフェアを試行する。

#### (1) 既存ストックの魅力を活用するフェア

##### ～愛知万博からの10年を振り返り、未来につなぐ～

全国都市緑化フェアのメイン会場となる愛・地球博記念公園は、「自然の叡智」というテーマのもとに展開した様々な愛知万博の理念や成果が継承されている空間である。

フェアでは、これらのストックを活用し、「緑」の分野で浸透した愛知万博の成果を表現し、未来へつなぐ愛知万博を経験した愛知県らしい情報発信力のあるフェアとする。

#### (2) みどりのチカラを体感するフェア

##### ～みどりのチカラを知り、そのチカラにワクワク、ドキドキする～

フェア来場者が、大人も子供も、新しい緑の技術、各種の展示、行催事に触れることによって「みどりのチカラ」を知り、心が楽しく、体が元気になる感覚を実感・体感できるフェアとする。

そして、高い満足感・充実感を味わうことのできるフェアとし、来場者が、「緑」のファンとなり、「緑」を暮らしに取り入れる契機としていく。

#### (3) 協働をエンジンとするフェア

##### ～県民が大活躍する舞台となる～

メイン会場で活動している「公園マネジメント会議」と連携し、各種の協働事業を展開するほか、メイン会場並びにフェアを構成する会場を、県内各地で緑化や環境改善に活躍する企業・団体・NPO・県民の参加の舞台として活用し、県民主導のフェアを実現する。

そして、フェアをきっかけに多彩な交流を生み出すとともに、来場者、参加者等のフェア関係者にフェア後の都市緑化推進、緑のまちづくりの活性化への継続的な関わりを求め、一過性に終わらない持続する緑化推進を目指す。

#### (4) 愛知県ならではのフェア

##### ～アイチにとことんこだわる～

モノづくり県、農業県（特に花卉産業）などに代表される蓄積された愛知の力を活かし、各種業界、各種の異分野とのコラボレーション、歴史文化の活用、県産県消の推進など徹底して愛知にこだわり、フェアで展開する事業の一つ一つが愛知の魅力が詰まったフェアとする。

## 4. 全国都市緑化あいちフェアの基本的事項

### 4-1. 主催者等

提 唱：国土交通省

主 催：愛知県・財団法人 都市緑化機構

事業主体：本フェア実行委員会を設立し、事業を推進する。

### 4-2. 開催期間

平成 27 年 9 月 12 日～11 月 8 日（58 日間）を基本とする。

※基本計画段階において、事業内容や事業費、目標入場者数等を勘案し、設定する。

### 4-3. 会場構成

本フェアの会場は、基本理念・開催方針を実感・体感できる「メイン会場」をはじめとし、フェア開催の目的に賛同し、基本理念・開催方針に沿って展開する会場やフェア開催の情報発信等で連携する会場を全県的に展開する。

#### （１）メイン会場

口場 所：愛・地球博記念公園（愛知県 長久手市）

##### （位置づけ）

- ・「緑」を愛し、もっと「緑」の力を知ってもらう全国都市緑化フェアのメイン会場として、緑の力の「見える化」等により、緑のある暮らしのすばらしさが実感・体感さらには体得出来る愛知らしい発信力をもった会場。
- ・本フェア実行委員会が主体となり事業を推進し、企業・団体、NPO、県民との協働、県内の自治体・企業・団体、NPO、市民や全国の自治体等の参加協力の下、展開する。

#### （２）サテライト会場及び協賛会場

本フェアでは、フェア関連会場として、「サテライト会場」「協賛会場」を基本構想策定時期から段階的に選定する。そして、全県にフェアの効果が広がり、本フェア閉幕後も緑化推進に寄与し、多様な「緑」の活動の「場」となり得ることを目指す。

##### （位置づけ）

- ・フェア開催の基本理念・開催方針に賛同し、展開する会場
- ・フェア開催を盛り上げ、フェアの情報発信やまちなか等での緑化意識の向上、多様な緑の活動の「場」づくりに繋がる会場
- ・サテライト会場は自治体、協賛会場は、企業・団体、NPO、県民の多様な主体により事業を推進、展開する。

#### 4-4. 入場方式

- ・メイン会場は、無料を基本とする。

#### 4-5. 目標入場者数

- ・100～150万人を目標とする。

※基本計画段階でさらに検討し、開催期間、事業内容、交通対策などを勘案し、設定する。

#### 4-6. その他基本的事項

##### (1) 愛称

- ・本フェアの統一主題（テーマ）を誰もが覚えやすく言いやすい親しみのあるフレーズで表現した「愛称」を設定する。
- ・愛称は、広く県民から公募より、できるだけ早く選定・決定し、広報宣伝活動で活用する。  
（例）「愛・地球“花”博」、「愛・知・緑化フェア」

##### (2) シンボルマーク等

###### ①フェア公式キャラクター

- ・メイン会場で開催された万国博覧会の理念や成果を継承するべく、現在も活動している愛知万博公式キャラクター「モリゾー・キッコロ」をフェアの公式キャラクターとして活用する。

###### ②シンボルマーク

- ・本フェアの統一主題を表象し、フェア閉幕後も県土の「緑」のシンボルマークとして親しまれるシンボルマークを広く県民から公募し、選定する。
- ・シンボルマークについてもできるだけ早く選定・決定し、広報宣伝活動で活用する。

##### (3) 事業費

- ・基本計画において、開催期間、事業内容、交通対策などを勘案し、設定する。

## 5. 事業推進計画

本フェアの事業推進においては、開催にあたり設定した基本理念や開催方針の本フェアでの具現化に向け、フェアに関わる多くの関係者との連携・協力さらには協働が必要不可欠である。

ここでは、より多くの人々との関わりの中で創り上げる新しい事業構造を持ったより質の高い緑化フェアの実現に向けた事業推進の基本的な考え方やスタイル、体制等を事業推進計画として示す。

### 5-1. 事業推進の基本的な考え方

本フェアの事業推進にあたっては、次の基本的な考え方にに基づき、推進、展開する。

- ・メイン会場を熟知した公園指定管理者や公園内で活動する既存団体（公園マネジメント会議グループ等）との連携・協働の「場」づくりを行う。
- ・主催者と参加者・協賛者という関係を越えてフェアに共に取り組むことのできる参加協働環境を整備する。
- ・全庁的な連携・協力のもと、情報や人材等のネットワークさらにはマンパワーを活用できる多角的・複合的な推進体制を確立する。

### 5-2. フェアを支える参加・協働の基本スタイル

本フェアでは、フェアの各事業のプロセスやフェーズにおいて主催者と多様な主体が共に目的を共有し、フェアに取り組むことが必要であり、その環境を整備する。

ここでは、環境整備にあたり基本となる参加のスタイルを示す。

#### （１）協働のスタイル

- ・計画段階から主催者と企業、団体、NPO、県民による多様な主体が、共にフェアの目的の達成に向けてフェア事業を推進する。
- ・事業推進に必要な情報、ネットワーク、アイデア、マンパワー等の充実を図ることにより、幅広く質の高い「緑」の表現、発信を期待する。

#### （２）参加のスタイル

- ・主催者が「場」を計画、提供し、企業、団体、NPO、県民による多様な主体が、スキル、アイデア、マンパワー等を発揮し、フェア事業を推進し、目的を達成する。
- ・フェアを盛り上げ、多様な「緑」の表現、発信を期待する。

### 5-3. 事業推進体制

本フェアの事業推進にあたっては、次の推進体制を基本に推進、展開する。

#### (1) 準備組織の環境整備

- ・準備組織は、多元的なフェア、その先の緑化推進の発展を目指し、部局間との連携により、事業推進に有益な意見・情報収集し、組織内で検討することのできる環境整備を行う。
- ・事業推進にあたっては、必要に応じて、事業の専門的な分野(交通輸送、観客誘致、協働推進、会場計画、植物調達等)に関して専門家による協議会等を設置し、推進方法等において助言を得る。



#### (2) 実行委員会の設置

- ・本フェアの円滑な事業推進を目的に、愛知県、財団法人都市緑化機構を主催者とする実行委員会を設置する。
- ・実行委員会は、行政、県民のほか経済・緑化・花き・教育・文化・交通・福祉・誘致広報等の関係団体により構成する。

#### (3) 実行委員会事務局の設置

- ・実行委員会のもと、事業の具体的な推進を図るため、実行委員会の事務局（以下、事務局）を設置する。
- ・本フェアでの事務局は、多角的なフェア事業推進の実現、フェア後の「緑」に関係する事業の更なる持続・拡充を目的とした関係部局に渡る行政職員で構成された組織とし、庁内の情報や人材等のネットワークを活用、運用できる事務局体制、庁内組織の横断的な課題にも十分取り組めるような組織とする。
- ・さらに、フェアの実務的なノウハウを補完するためにフェア事業の専門的な分野を担当する専門家や技術者等を適宜配置した構成とする。
- ・フェア後の持続的で自立的な県民主体の都市緑化推進に向け、その推進母体ともなる県民、企業、NPO、団体と強く連携した県民協働によるフェア事業の推進を目指す。
- ・会場計画や展示、会場運営・管理をはじめとした協働・参加分野の事業推進に関わる県民・団体・NPO等との検討の「場」づくりを進める。

### 5-4. 協賛計画

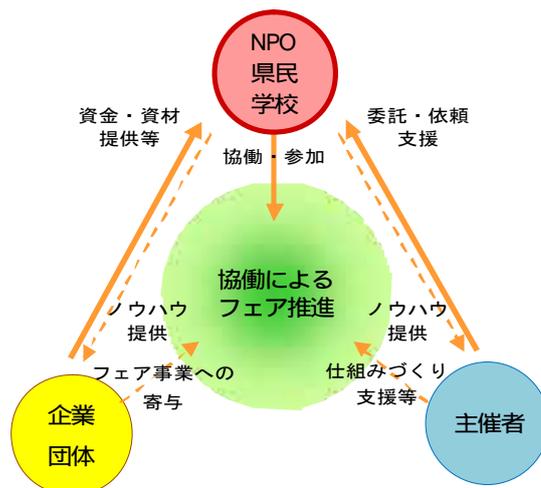
- ・事業推進のプロセス・フェーズでフェアに賛同し、連携・協力を得た多様な主体の姿が見えるフェアを計画、展開する。

## 6. 協働推進計画

愛知県では、広域緑地計画において、緑に関する課題に対応するため、公共（地方公共団体・公共セクター等）、県民、NPO、モノづくりあいちの企業など、多様な主体で支え合うという方針の基、すべての分野において県民協働による緑のまちづくりを推進している。

また、愛・地球博記念公園では、県民・NPO・ボランティア・企業と行政の協働によって地域社会を支えあう「新しい公共」の形成に向けた試みの一つとして「公園マネジメント会議」を設置し、利用者目線で公園の管理運営を協議し、実践している。このように、愛知万博により広がった県民協働の動きは、社会情勢の変化等により複雑化する緑の課題に対応し、持続的な「都市と自然が調和した環境にやさしいあいちの緑づくり」を推進する協働の仕組みにつながっている。

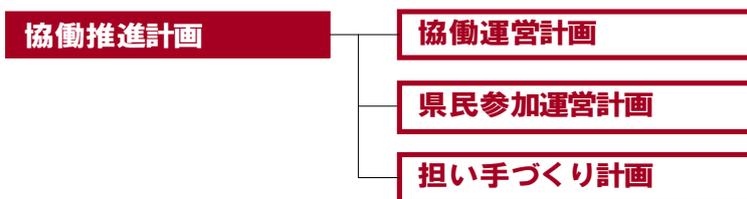
本フェアにおいても、主催者、県民・NPO・学校、企業・団体といった、多様な主体との協働により推進することにより、効果的なフェア及び都市緑化の推進を図る。



【多様な主体との協働の考え方】

### 6-1. 計画の基本構成

本フェアでの協働推進計画は、次の構成を基本とする。



## 6-2. 基本的な考え方

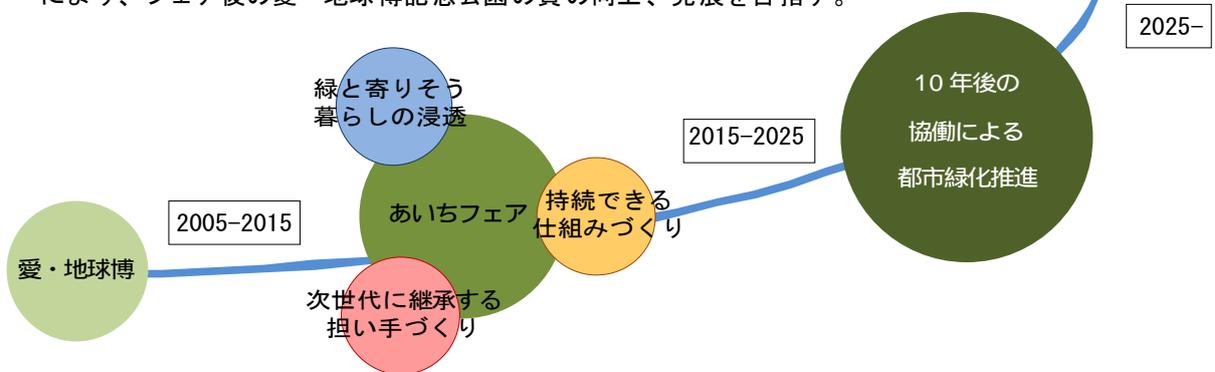
本フェアでの協働推進計画は、次の基本的な考え方に基づき、計画、展開する。

### (1) あいちの協働の仕組みを活かした発展

本フェアでは、愛知万博をきっかけに広がった協働の仕組みを基盤とし、10年後のより充実した愛知の協働の仕組みにつなげることを目指す。

そのために、①幅広い層に対する緑のある暮らしの発信・浸透 ②多様な主体がつながり無理なく持続できる協働の仕組みづくり ③本フェアでの取り組みを契機とした「緑のまちづくり」を次世代へと継承する担い手づくりの3つのキーワードで、これまでの取り組みを検証しながら、フェア運営における協働の仕組みに取り入れる。

さらに、メイン会場においては既に協働を実践している公園マネジメント会議との連携・協力により、フェア後の愛・地球博記念公園の質の向上、発展を目指す。



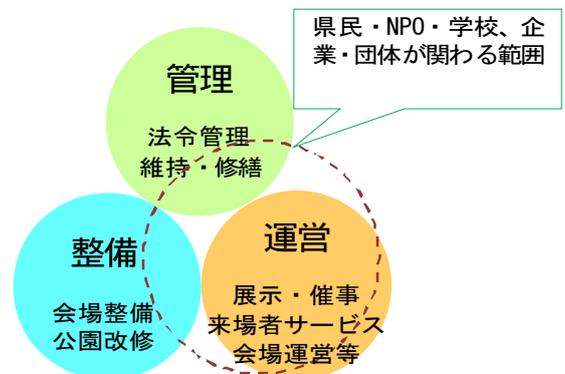
### (2) 多様な主体とともに創るフェア

本フェアでは多様な主体とともにつくることで、多元的な緑の魅力、緑のある暮らしの楽しさを来場者目線で実現、発信する、満足感、充実感の高いフェアを目指す。

また、協働のプロセスを通して、新たなコミュニティが形成され、豊かな地域づくりへと発展していくようにする。

本フェアの協働の取り組みにおいては、メイン会場で既に協働を実践している「公園マネジメント会議」の役割範囲に則り、管理・運営・整備の全体的な責任は主催者が負うものとする。

また、県民・NPO・学校、企業・団体が関わる範囲は運営を中心として、来場者の満足度を向上させ、協働によるフェア推進のあり方を考え、提案、実行を図るものとする。

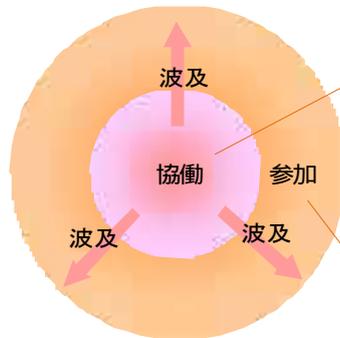


【県民・NPO・学校、企業・団体の役割】

### (3) 幅広い県民の参加によるフェア効果の波及

本フェアでは多様な主体による協働を核としながら、幅広い県民参加事業を積極的に展開する。また、県民の関わるレベルに応じて、それぞれに参加しやすい「場」づくり、仕組みづくりを行うことで県民が関わりやすいフェアを実現する。

そして、フェアでの経験、体験からフェア後の緑への意識の向上、持続に寄与し、多様な主体による都市緑化推進の向上を目指す。



**【協働】**  
パートナーシップに基づき企画から実行まで、主催者と役割を分担して目的の達成を図る。

**【参加】**  
主催者により設けられた場に受動的に参加する。

### 6-3. 協働運営計画

#### (1) 協働運営の区分

本フェアでの協働運営は、次の通り区分する。



## (2) 基本的な考え方

協働運営計画は、フェアの協働のスタイルで協働推進計画の基本的な考え方に沿って、計画段階から県民・NPO・学校、企業・団体といった多様な主体がフェアに関わる「場」を設け、協働そして実践によって来場者目線のフェアを展開する。

### 展開のイメージ

#### □これからの緑のある暮らしを発信する協働展示

- ・多様なアイデアと発想により緑の多面的な魅力を発揮する。
- ・NPO等の多様な主体のノウハウを活かし、愛知の都市緑化及び愛・地球博記念公園の新たな魅力を引き出す。
- ・会場を舞台に人々のつながりを生み出し、新たなコミュニティ形成のきっかけとする。



県民による暮らしを彩る提案型展示(例)

#### □緑を楽しめるおもてなし協働催事

- ・愛知万博の理念を引き継ぎ、愛・地球博記念公園での多様な活動と経験を活かす。
- ・多様な主体がフェアを舞台として輝き、来場者も楽しめる仕組みとする。
- ・来場者に緑や会場、そして、公園の魅力を体感してもらえる内容とする。



NPOによる緑を活用した催事(例)

#### □フェア効果の全県への波及を目指した協働によるサテライト会場の展開

- ・地域ごとの魅力や資産、人を活かした会場づくりを行う。
- ・緑の多面的な魅力を地域性と結びつけ来場者目線で発信する。
- ・フェア後の花と緑のまちづくりにつなげるため「あいち森と緑づくり事業」等の緑化関連事業と連携した戦略的な展開とする。

## 6-4. 県民参加運営計画

### (1) 県民参加の区分

本フェアでの県民参加運営は、次の通り区分する。



### (2) 基本的な考え方

フェア後の県民主体の緑化推進、そして「緑のある暮らし」の浸透へとつなげるため、多様な県民の自発的な参加を促し、参加しやすい「場」づくりを行う。

開催前からフェアの各事業への県民・NPO・学校、企業・団体の参加を図ることで、全県的な盛り上がりを創出し、フェアの幅広いPRへと繋げる。そして、フェア効果の浸透、一過性に終わらないフェアを目指す。

### 展開のイメージ

#### □多様な県民が「緑」をキーワードにつながる参加展示

- ・緑化関連団体のみならず幅広い県民・NPO・学校、企業・団体の参加による、環境保全、都市環境改善、花育等、都市緑化の推進を多角的に提案する展示とする。
- ・都市緑化や環境保全に取り組む県民・NPO・学校、企業・団体の発表の場とする。
- ・フェア後の緑のまちづくりにつなげるべく、参加者同士の交流も図る。



県民による作品展示(例)

#### □緑の楽しみを体感・体験できる参加体験催事

- ・緑化関連団体のみならず幅広い県民・NPO・学校、企業・団体の参加により、県民目線で緑の楽しさを知り、感じ、体験できる内容とする。
- ・都市緑化や環境保全に取り組む県民・NPO・学校、企業・団体の発表の場とする。
- ・県民の意識や技術レベルに応じ、それぞれに緑化意識を高められるよう、多様なプログラムを実施する。



花卉に関する参加体験催事(例)

### □フェアを盛り上げる多彩な交流催事

- ・各地域の県民交流を促進する県民・NPO、企業等が主体的に関わり、県民同士の多様な交流を生み出す。
- ・県内外の来場者が愛知の地域文化に興味をもつきっかけづくりする。
- ・愛知万博で生まれたフレンドシップパートナーの絆を再確認する。



文化交流催事(例)

### □県民が活躍できる場となる運営ボランティア

- ・ボランティアの活躍による満足度の高いおもてなしサービスや情報発信を行う。
- ・生きがい、やりがいにつながる活動内容とする。
- ・NPOや愛・地球博ボランティアセンターと連携し誰もが参加しやすい仕組みをつくる。



ボランティアによる会場サービス(案内)(例)

## 6-5. 担い手づくり計画

フェア後も持続的に都市緑化を推進する担い手を育成するため、自立的な緑化活動に必要な技術や手法を学ぶ実践的なプログラムを展開する。

### 展開のイメージ

#### □無理なく楽しみながら緑化を推進する手法や技術を学ぶ

- ・ 県民主体の都市緑化活動を進めるための手法や花緑の育成技術だけでなく、緑を楽しむための工夫もあわせて学ぶ講座とする。
- ・ 参加意欲や緑化への意識や技術のレベルに応じて選べる柔軟な仕組みをつくる。
- ・ フェア後は地域の花と緑のまちづくりや公園での緑化活動に結び付ける。
- ・ 内容については都市緑化に関連するNPO、企業等とともに検討し、愛知県の現状もふまえたフェア後の活動につながる実践的な内容とする。
- ・ 県内で緑化の普及啓発に取り組むNPO、企業等とともにこれまでの取り組みを検証し、これまでの経験で得たものを次世代に引き継ぐ。



花や緑に関する講座（例）



花や緑に関する実践講座（例）

#### □学んだことをフェア会場で実践する

- ・ 学んだ内容をふまえて、会場内で作品制作や催事、会場運営などに取り組み、緑の楽しみを来場者に伝える。
- ・ それぞれの興味に沿った活動となるよう、柔軟な実践の場を設ける。



県民講師として参加する催事（例）

## 7. 会場計画

### 7-1. メイン会場の概況

- ・メイン会場となる愛・地球博記念公園は、194.2haの計画面積を有し、2005年の愛・地球博閉幕以降、平成19年3月に策定された「愛・地球博記念公園 基本計画」に基づいて、博覧会の理念を継承した「サスティナブルパーク」を目指し、段階的な整備が進められている。
- ・園内は、敷地東側の愛知県の郷土景観ともいえる里山林（樹林）が占める「もりのゾーン」と西側の大型の建築物やオープンスペース、テーマの異なる園地群「ひろばのゾーン」に大別され、園内の所々に溜め池があり、5つの谷を有する谷戸の地形となっている。
- ・敷地東側の谷戸地形特有の尾根筋が園地に入り組み（丘陵部が侵食され谷状となり）里山林（樹林）が園地に近接するランドスケープが特徴的といえ、池の畔の水辺のランドスケープや地形の高低差によって視点場が変化するランドスケープも特徴といえる。
- ・広大な敷地に博覧会の記憶を残す施設や利用目的の異なる集客力のある施設が園内の所々に里山林や谷戸、高低差のある地形を活かしながら点在し、環境学習やスポーツ、レジャー等公園利用者の多様なニーズに対応している。
  
- ・公園運営においては、愛・地球博の理念と成果を継承し、「公園に関わる県民と行政のパートナーシップにより両者が共に考え、実践していく公園管理運営への取り組み」を実現するため、NPO、ボランティア団体、企業、大学などが行政、指定管理者と公園の運営について協議、実践する場として「公園マネジメント会議」が設立され、きめ細やかなサービスの提供、利用者の満足度向上、魅力ある公園づくりに取り組んでいる。
- ・公園の管理運営は、愛知県児童総合センター、観覧車等を除く公園区域を指定管理者：（公財）愛知県都市整備協会）が管理運営を行っている。（愛知県児童総合センターの指定管理者は、（財）愛知公園協会、観覧車等の管理者は、泉陽興業（株）である。）
- ・指定管理者により、前述の「公園マネジメント会議」や地球市民交流センターパートナーや公園ボランティア等のサポートも行われている。
- ・また、公園の未供用区域である「県民公園づくり空間」において、「あいちサトラボ」として、県民の自主的な活動の場、交流の場として、県民協働によるワークショップで発案された里山的空間を舞台「モリコロパーク里山開拓団」が、農の営み、先人の知恵、自然の循環をキーワードにして里山づくり活動を行っている

## 7-2. 計画の基本構成

本フェアでの会場計画は、次の構成を基本とする。



## 7-3. 基本的な考え方

会場計画は、フェアの基本理念、開催方針の「見える化」を目的に次の基本的な考え方に沿って計画、展開する。

- ・多様なフェア事業を支える基盤となり、既存のランドスケープや既存施設の機能を活用し、愛知万博からの10年間で培った多様な魅力を十分、発揮する会場とする。
- ・緑の大切さや緑の持つ効用を伝え、緑のある明日の暮らしを創造する多彩な「緑」を実感、体感できる多様な「場」を展開する会場とする。
- ・フェア事業を通して、様々な人が活動し、活躍・交流できる「場」、その成果を発信する「場」を展開し、緑に対する意識向上や緑の分野での協働や参加の推進に繋がる会場とする。
- ・会場の随所で多様な愛知の魅力を発揮した愛知らしい「場」を展開する会場とする。

#### 7-4. ランドスケープ計画

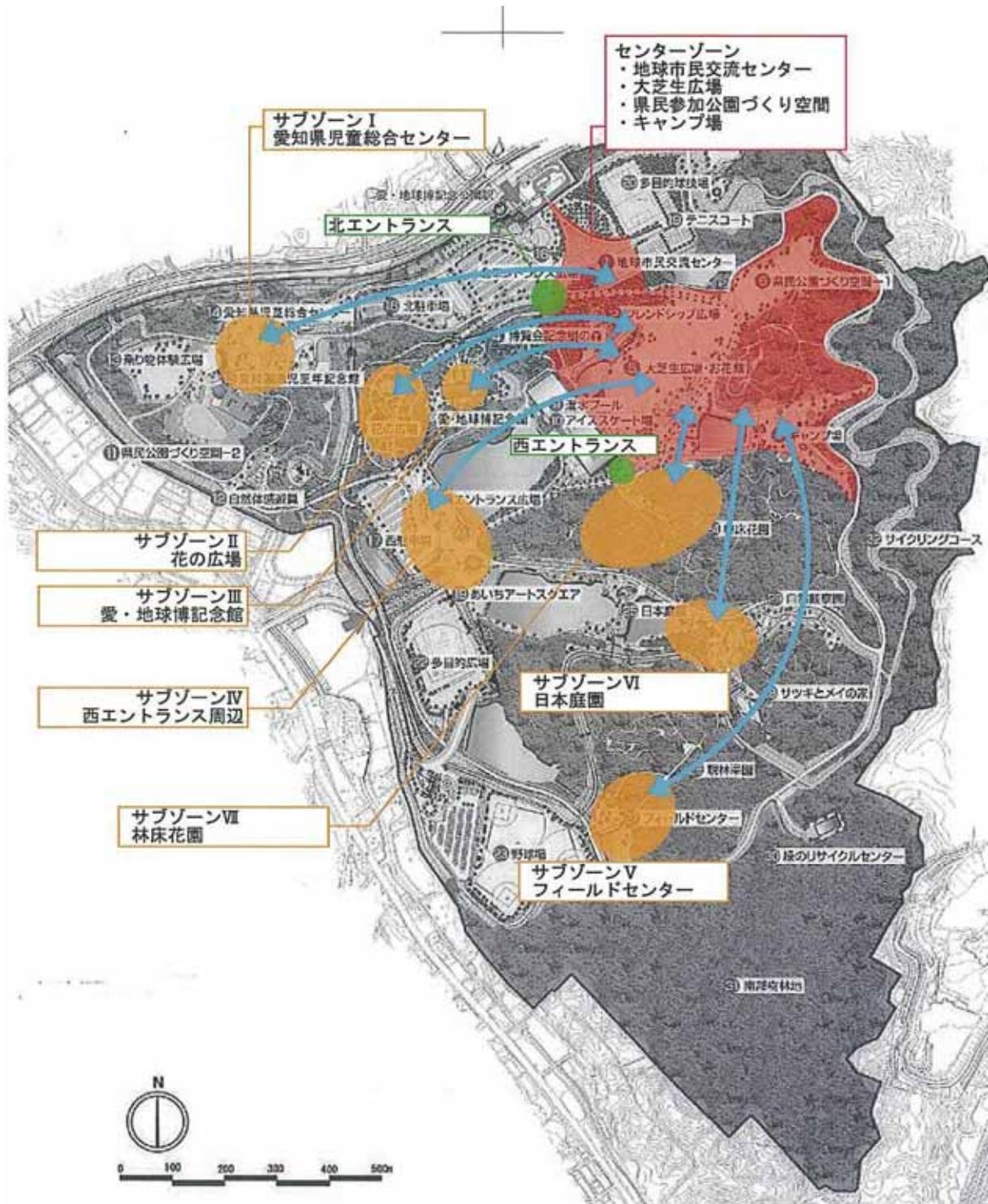
フェアのメイン会場は、会場既存の魅力、資源を活かしながら、全国都市緑化フェアの会場として質の高い会場空間（ランドスケープ）を創出することを基本に、計画、展開する。

##### (1) 会場の基本構成

計画にあたり、本フェアでは、メイン会場である愛・地球博記念公園の広大な敷地を既存の魅力や資源のストック、フェア開催時の人の流れ（滞留、動線等）、整備コストの軽減等を勘案し、既存のエリア・施設を次のゾーンに大別する。

ゾーン区分		エリア・施設名	概要等
センターゾーン	フェア事業で集中的に整備、展開する区域	県民参加公園 づくり空間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は、未供用の区域であるが、会場の特色、魅力である里山の景観資源、県民協働による里の空間が展開されている。</li> <li>・フェア会場としては、公園整備との調整により整備コストの軽減が期待できる。</li> </ul>
		キャンプ場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は、未供用の区域であるが、会場の特色、魅力である里山の景観、水辺（ため池）の景観資源を有した特徴的なエリアである。</li> <li>・来場者の公園整備との調整による整備コストの軽減が期待できる「未供用区域」（県民参加公園づくり空間及びキャンプ場）の二つの谷戸。</li> </ul>
		大芝生広場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博覧会時にも広場空間として利用され、園内の中で来場者が滞留できるまとまったスペース（平坦地）を確保できる。</li> </ul>
		地球市民交流センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛・地球博記念公園駅と直結し、園内の運営サービスの拠点であり機能、設備の充実し多様な活用が期待できる。</li> </ul>
サブゾーン	既存の魅力や資源のストック 活かし展開する区域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県児童総合センター</li> <li>・西エントランス広場及びあいちアーツスクエア</li> <li>・愛・地球博記念館</li> <li>・花の広場</li> <li>・フィールドセンター（もりの学舎）</li> <li>・林床花園</li> <li>・日本庭園</li> </ul>	

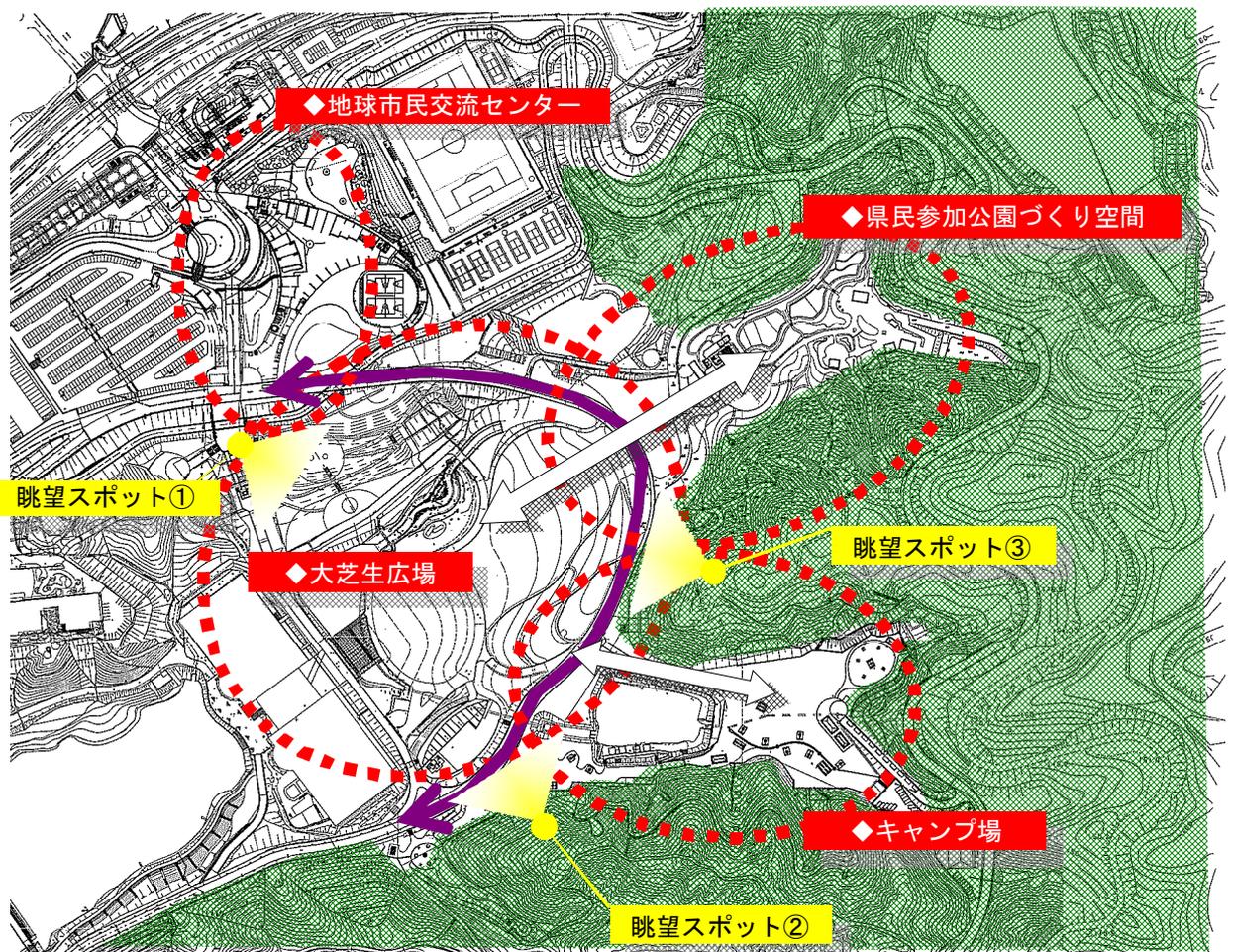
### ③会場基本ゾーニング



## (2) センターゾーン

### ① センターゾーンのランドスケープ

- ・センターゾーンの地形は、「大芝生広場」の北から南へ緩やかに傾斜する地形と「県民参加公園づくり空間」「キャンプ場」の敷地両側及び敷地奥の里山林で囲まれた谷戸の地形（景観）、ゾーン全体を見渡す（眺望）ことができるほどの高低差のある「地球市民交流センター」の平坦地が特徴といえる。
- ・「県民参加公園づくり空間」の谷戸は、「大芝生広場」の東側に位置し、「大芝生広場」から主園路を挟み、緩やかに続く谷戸地形であり、「大芝生広場」から谷戸の里山への「遠景」が特徴的である。
- ・「大芝生広場」の南に位置する「キャンプ場」の敷地は、主園路から若干、高く、主園路沿いに位置する「ツツジ池」の畔を抜け谷戸に入る。
- ・北に「ツツジ池」、南、西、東の里山林と四方を囲まれ、敷地の所々に針葉樹の大木が残る敷地は、センターゾーンの中でも特徴的なランドスケープを有している。
- ・「地球市民交流センター」からは、「大芝生広場」や「県民参加公園づくり空間」「キャンプ場」の里山を望むことができる。



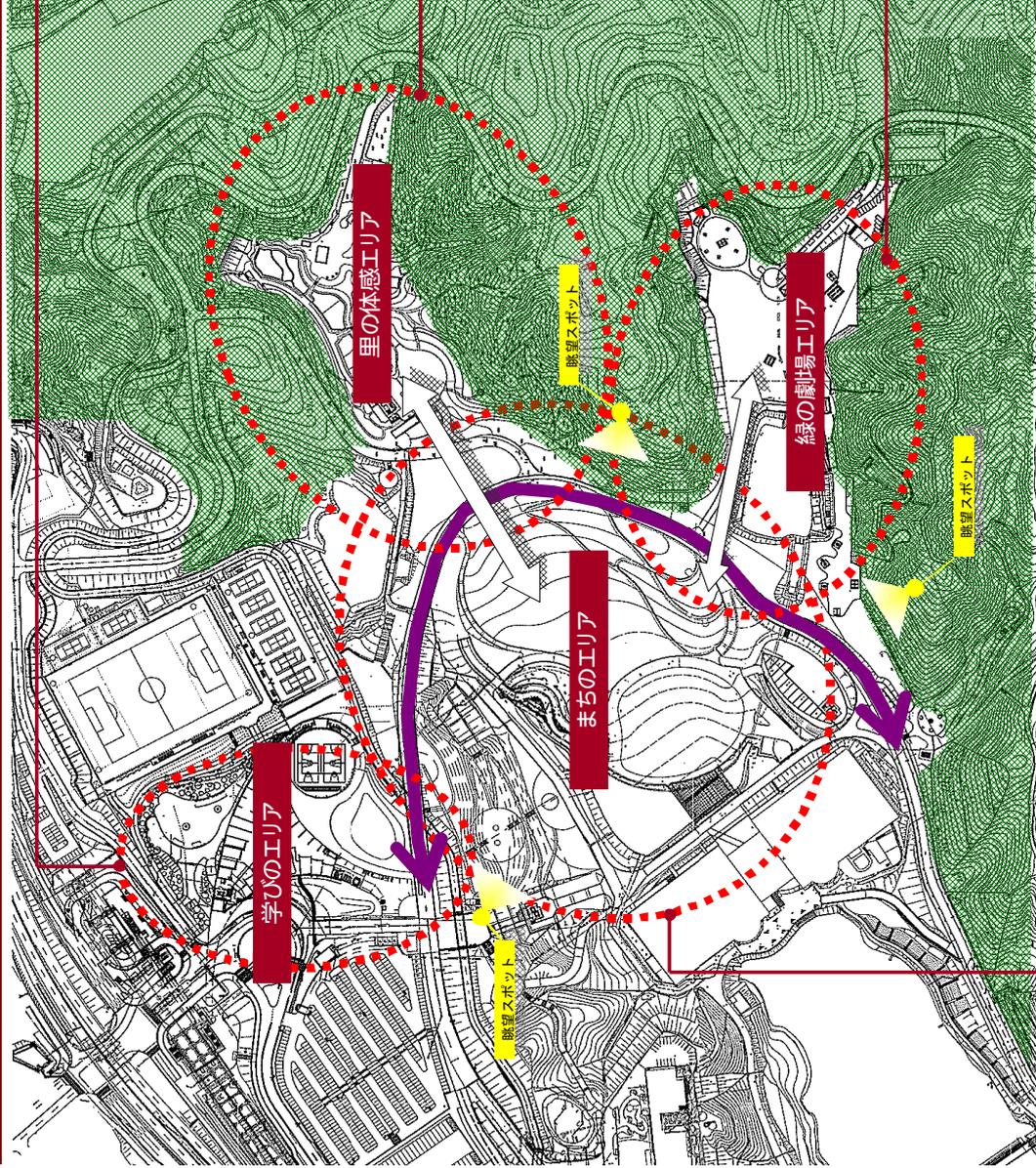
## ②センターゾーンの基本的な考え方

- ・ゾーン全体としては里山林に囲まれた谷戸のランドスケープと緩やかに谷戸へ続く芝生広場の大らかなランドスケープを活かした空間づくりを行う。
- ・敷地を囲む里山林が落ち着いた雰囲気を作り出す「県民参加公園づくり空間」の谷戸では、活動、整備が進む里の風景に似合う修景・演出をベースとし、既存の景観ストックを活かした会場づくりを行う。
- ・ゾーンの中では特徴的なランドスケープを有する「キャンプ場」では、ため池と里山に囲まれた「緑」の空間を特別な空間として捉え、主園路から谷戸へ引き込む修景・演出を行い、「緑」に囲まれた空間における印象的で質の高い「緑」を展開する。
- ・「大芝生広場」では、2つの谷戸への景色の繋がりを意識しながら、芝生の大空間を利用し、多くの来場者が多彩な「緑」と交流し、賑わう空間づくりを行う。
- ・「地球市民交流センター」では、施設ストックを最大限活用した会場づくりを行う。
- ・ゾーンの随所で様々な人が関わり、活動し、活躍・交流できる「場」づくりを行う。

## ③センターゾーンの構成

センターゾーンは、次の4つのエリアに大別し展開する。

エリア名 (仮称)	既存エリア ・施設名	展開イメージ
里の体感 エリア	県民参加公園 づくり空間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知の緑の特徴ともいえる里山を舞台とし、既存の里の風景や活動をベースとし、直接「緑」に触れ、「緑」を身近に感じ、楽しむエリアとする。</li> <li>・里地の活動空間を利用した催事や里の風景に馴染む展示を行うと共に、林内を使用した多様な主体による展示や催事の実施から「緑」を体感できるエリアとする。</li> </ul>
緑の劇場 エリア	キャンプ場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑に囲まれた「緑の屋外劇場空間」として質の高い「緑」の演出や「緑」と異分野のコラボレーションなど「緑」の可能性を感じるエリアとする。</li> <li>・敷地の地形を活かした展示や修景・演出をベースに催事や飲食サービスなど「緑」を満喫できるエリアとする。</li> </ul>
まちの エリア	大芝生広場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芝生の大空間と既存施設を利活用しつつ、多彩な「緑」が展開する「みどりのまち」を演出する。</li> <li>・エリアの随所で様々な「緑」の展示や催事を行うとともに充実した「緑」の飲食物販サービスの提供から、様々な「緑の力」に出会えるエリアとする。</li> </ul>
学びの エリア	地球市民交流 センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋内空間を活用し、講習会や教室等の催事や「緑」の展示、「緑」や「環境」等を学ぶ展示、シンポジウム等を行い、多面的な「緑」の知識を深め、「緑」を再発見する「場」となるエリア。</li> </ul>



学びのエリア

・屋内空間を活用し、講習会や教室等の催事、「緑」や「環境」等を学ぶ展示、シンポジウム等を展開し、多面的な「緑」の知識を深め、「緑」を再発見する「場」となるエリアです。



・「緑」の技術を体得する講習会や各種の体験教室の展開。  
・幅広い年齢層をターゲットに「緑」へ意識浸透を目的とする参加体験型催事の展開。



・既存の施設を活用し、「緑」への興味を盛り上げる様々な催事や展示の展開



・生物多様性等、地球規模の環境問題や企業・団体等の取組、緑の重要性を伝える展示



・既存の「里」の空間を利用した田植え、収穫等の「農体験」や里山林の間伐や下草刈り等、里山の作業等の参加体験催事の展開

里の体感エリア

・愛知の緑の特徴ともいえる里山を舞台とし、既存の里の風景や活動をベースとし、直接「緑」に触れ、「緑」を身近に感じ、楽しむエリアとする。  
・里地の活動空間を利用した催事や里の風景に馴染む展示を展開すると共に、林内を使用した多様な主体による展示や催事等により、「緑」を体感できるエリアとする。



・活動団体の取り組みを紹介するイベントやワークショップ等を行う運営拠点  
・収穫作物を使用した飲食サービスの展開。



・既存の「里」の空間を利用した田植え、収穫等の「農体験」や里山林の間伐や下草刈り等、里山の作業等の参加体験催事の展開



・郷土の多年草、宿根草等による生物多様性への意識のきっかけとなるガーデンの展開。  
・野の花に囲まれた里の空間を演出



・県内のアーティストや学生による里山を舞台とした屋外芸術の展示展開。

緑の劇場エリア

・緑に囲まれた「緑の屋外劇場空間」として質の高い「緑」の展開や「緑」と異分野のコラボレーションなど「緑」の可能性を感じるエリアとする。  
・敷地の地形を活かした展示や修景・演出をベースに催事や飲食サービスなど「緑」を満喫できるエリアとする。



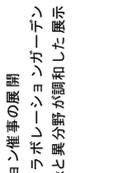
・著名なアーティストや造園家による作品展示の展開  
・質の高い展示から多様な「緑」の表現を学ぶ「場」を創出する



・水辺の空間を活かした飲食サービスの展開。  
・水辺の空間を利用した生物多様性へのきっかけづくりとなる展示の展開。



・「生物多様性」「環境」「緑」等をテーマに、暮らしや街に「緑」のデザインを提案するガーデンや先進技術を取り入れたガーデンの展開



・県内と異分野のコラボレーション催事の展開  
・県内のアーティストとのコラボレーションガーデン等の、緑の可能性を伝える緑と異分野が調和した展示の展開。

まちなエリア

・芝生の大空間と既存施設を活用しつつ、多様な「緑」が展開する「みどりのまち」を演出する。

・エリアの随所で様々な「緑」の展示や催事、「緑」の飲食物販サービスの提供から、様々な「緑」の力」に出会えるエリアとする。



・県内の花卉や園芸資材等の展示販売、県内産業、文化に関連する物販等、多様な主体による物販、飲食サービスの展開。



・「あいち森と緑づくり事業」を浸透させるモデルガーデンや暮らしの「緑」を体感するガーデン等の展示。



・公式行事や交流催事等フエアを盛り上げる様々な催事の展開。  
・「緑」に関連した実演等の催事展開



・県内の大学や高校等を対象としたコンベンションガーデンの展開  
・造園企業による公開制作庭園等の展示展開

### (3) 会場修景演出の基本的な考え方

本フェアの会場修景演出は、次の基本的な考え方に基づき、計画、展開する。

- ・メイン会場の景観資源、地形等の空間特性を活用し、調和する花と緑の空間演出により、印象的なランドスケープの創出
- ・既存の施設や仮設施設と緑や花が一体となった空間演出
- ・宿根草、多年草、球根、彩り豊かな一・二年草など愛知の誇る多彩な植物と緑の効用を伝える多様な競演による会場修景
- ・植物の組み合わせや配植の手法を効果的に用いながら各ゾーンの特性に応じた美しい空間づくり
- ・フェア閉幕後の緑に関する取り組みや暮らしに緑を取り入れること（緑化推進のベース）につながる修景・演出

### (4) サブゾーンの展開イメージ

サブゾーンでは、既存施設、空間の魅力、ストックを活用し、センターゾーンの魅力を補完する次のような利用展開を図る。

エリア・施設名	展開イメージ
愛知県児童総合センター	○緑に親しむきっかけづくり ・指定管理者との連携により、既存の魅力や取り組みを活用しながら施設の屋内外で子供、親子をターゲットとした緑や花に触れるきっかけづくりを展開する。
西エントランス広場及びあいちアートスクエア	○フェアを盛り上げる修景・演出 ・エントランスの比較的まとまったスペース、親水空間の活用し、エントランスの修景演出やフェアを盛り上げる催事等を展開する。
愛・地球博記念館	○愛知万博の記憶 ・既存の博覧会の記憶を振り返る屋内展示と公式行事等での運営活用を図る。
花の広場	○フェアを盛り上げる修景・演出 ・既存の地形、施設、空間の活用し、沿道の修景演出、催事等を展開する。
フィールドセンター（もりの学舎）	○森に触れるきっかけづくり ・指定管理者、インタープリターとの協働による既存の取り組み、ノウハウの活用し、「里山(自然)の入口」となるインタープリテーションの拡充し展開する。
林床花園	○緑に親しむきっかけづくり ・既存の環境ストックを活用し、ネイチャートレイルやフィールドワーク等の指定管理者と連携し、里山(自然)に触れ、学ぶ「場」としての展開
日本庭園	○緑の魅力を知るきっかけづくり ・谷戸の景観を取り込んだ質の高い庭園空間からランドスケープを学び、知る「場」として展開する。

## 7-5. 展示計画

本フェアの展示計画は、主催者や多様な主体により展開する。

本フェアにおける「展示」の定義

- ・展示の対象区域を設定、限定せず、展開する「全域型」の展示物
- ・会場の一定の区域（区画）を設定、限定し、展開する「区域（区画）型」の展示物

### （１）展示の区分

本フェアの展示は、展開する主体や参加の基本スタイル等により次の通り、区分する。



展示区分		展示主体	備考
主催者展示	□主催者により企画、立案、制作（整備）する屋内外の展示物	主催者	
協働展示	□協働のスタイルにもとづいて企画、立案、制作する屋内外の展示物	企業・団体、NPO、学校（高校・大学等）	6-3 参照
参加展示	□参加の基本スタイルにもとづいて制作、展開する屋内外の展示物	自治体、企業・団体、NPO、学校（小中学校、高校・大学等）、県民（個人・グループ）	6-4 参照

### （２）基本的な考え方

本フェアの展示は、フェアのメイン会場等の屋内外において「緑ある暮らしの明日」を具現化（見える化）し、フェア後の暮らしに取り入れる「緑」の波及を期待するものとして、次の基本的な考え方に基づき、計画、展開する。

- ・メイン会場等、会場のストック、ランドスケープを活用した「緑」の新たな可能性を引き出す展示
- ・愛知県の蓄積された多彩な「力」を発揮した発信力のある展示
- ・「緑」を身近なものと感じ、暮らしに活かすことのできる「緑」の機能や役割、効用など「緑」の力を実感、体感できる展示
- ・「緑」の技術や手法を学ぶ実践的な展示
- ・多彩な「緑」の表現により、人と緑、人と人の交流が生まれ、フェア会場を盛り上げる展示

## 展開のイメージ

- ・メイン会場等、会場のストック、ランドスケープを活用した「緑」の新たな可能性を引き出す展示



既存の空間を活用した展示（例）



既存の景観と調和した展示（例）

- ・「緑」の技術や手法を学ぶ実践的な展示



緑化技術の展示（例）



著名なガーデナーの展示（例）

- ・「緑」を身近なものと感じ、暮らしに活かすことのできる「緑」の機能や役割、効用など「緑」の力を実感、体感できる展示



植物に触り、実感する展示（例）



緑の効果を実感する展示（例）

- ・多彩な「緑」の表現により、人と緑、人と人の交流が生まれ、フェア会場を盛り上げる展示



緑を感じる空間展示（例）



- ・愛知県の蓄積された多彩な「力」を発揮した発信力のある展示



郷土の草花を使用した展示（例）

## 7-6. 植物調達計画

本フェアでは、主催者による会場修景演出及び展示に使用する植物、協働展示及び参加展示で必要と判断される植物の生産調達を行い、次の基本的な考え方に基づき、計画、展開する。

- ・ 県内の植物の生産状況や特徴を踏まえながら、安定的な供給を図るために、会場で使用する草花、樹木に関する生産調達、施工、維持管理などの総合的な推進体制を実行委員会（事務局）と庁内部局との連携により整える。
- ・ 県内の花卉産業の更なる活性化及び県土、県民への花卉の普及を目的に、県内の生産団体等との連携協力による植物生産調達体制を整える。
- ・ 会場修景への利用や利用する材料の情報発信、フェアを契機とした植物材料の開発など、全国に誇る愛知の花卉を再認識するとともに県内産の植物を活用した展開を目指す。
- ・ 植物材料の提供だけでなく、緑（樹木や草花）を身近に感じ、緑に関する知識を深め、暮らしに取り入れることができるように、花育等の既存の取り組みの充実を図る。

## 8. 会場運営計画

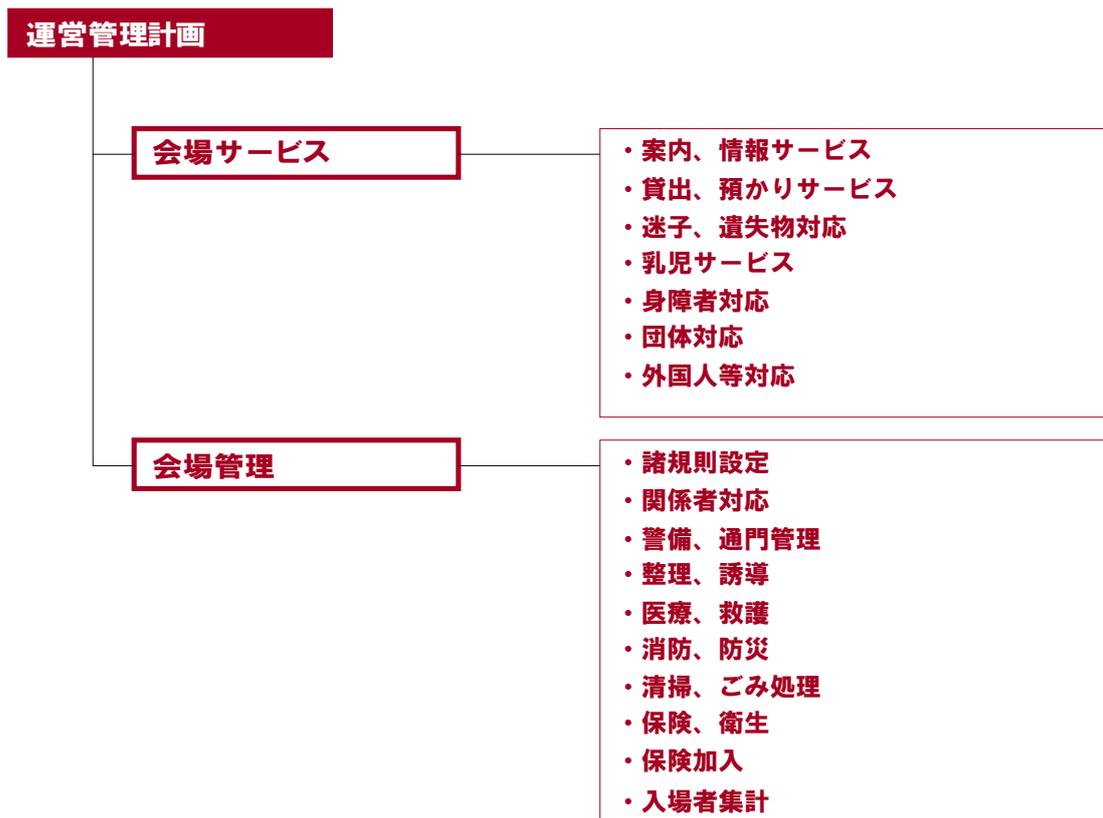
### 8-1. 計画の基本構成

本フェアでの会場運営計画は、次の構成を基本とする。



### 8-2. 運営管理計画

#### (1) 運営管理の区分



※上記の分類を基本に計画段階以降に運営管理項目の絞り込みを行う。

## (2) 基本的な考え方

本フェアの運営管理は、次の基本的な考え方に基づき計画、展開する。

- ・快適で安全な空間を提供するとともに来場者が多彩な「緑」に触れ、暮らしへの緑の浸透や緑化活動の実践に繋がる会場サービスや会場管理を行う。
- ・全国規模の博覧会として必要な情報を正確に伝え、案内できる質の高いサービスの提供やフェアの各事業で展開される様々な緑の取り組みをサポートする会場運営管理を行う。
- ・メイン会場では、愛・地球博記念公園の全エリアを実行委員会と既存の管理運営組織(指定管理者及び公園マネジメント会議等)との連携・協力により運営管理を行う。
- ・運営管理の様々な場面で多くの県民がフェアに参加、協働できる環境や体制を整え、参加者の達成感や満足度が向上するとともに、フェア後の緑化推進の担い手づくりを念頭に置いた会場運営管理を行う。

### 展開のイメージ

---

#### □ホスピタリティ溢れる会場運営

- ・多彩な「緑」や取り組みの情報、来場者から必要とされる情報を正確に伝え、案内できる質の高いサービスを提供する。
- ・安全にそして、安心して楽しめる会場管理体制を構築する。
- ・フェアの様々な場所で「緑」の「魅力」を伝え、フェアを盛り上げ、多くの来場者、リピーター獲得を目指し、来場者にとって満足度の高い会場運営・管理を行う。

#### □既存の管理運営形態を活用した会場運営管理

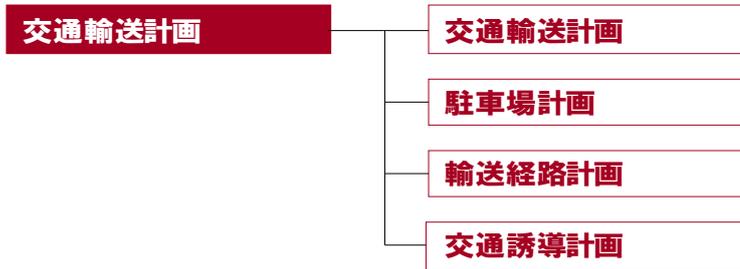
- ・メイン会場を熟知した指定管理者や園内で活動する県民・NPO・企業等との計画段階からの協働により、既存のノウハウ等を活用した質の高い会場運営管理を行う。
- ・これまで蓄積してきた県民、NPO等による既存の来園者サービスのスキル、もてなしの心を十分に発揮し、県民、NPO等がホスト、キャストとして活躍できる会場運営管理を行う。

#### □運営管理への参加協働による今後の公園運営、まちづくりへ繋がる運営管理

- ・運営管理の様々な場面で多くの県民がフェアに参加、協働できる環境や体制を整え、県民がホスト、キャストとして達成感や満足度が向上するフェアを目指す。
- ・フェアの運営管理への参加協働の経験、体験を通して、多様な可能性を持つ「緑」をより実感し、愛・地球博記念公園の発展、さらには、都市の活力となる緑の魅力伝える担い手の育成につながる仕組みづくりを行う。

## 8-3. 交通輸送計画

### (1) 交通輸送の分類



### (2) 基本的考え方

本フェアの交通輸送計画は、円滑な来場者の輸送および環境に配慮した公共交通機関の積極的な促進を目的とし、次の基本的な考え方に基づき計画、展開する。

#### □公共交通機関の利用促進

- ・自動車への依存が顕著な本県でのフェアは、会場に隣接するリニモをはじめとした公共交通機関による来場を促進する。
- ・計画にあたっては、メイン会場周辺を中心に展開する愛知県の環境政策(エコモビリティライフの促進)と連携した輸送計画を展開する。
- ・また、関係機関との協働連携による近隣主要駅からのシャトルバス運行等の公共交通機関の利用促進方策を検討する。

#### □臨時駐車場の確保

- ・既設公園駐車場の活用と合わせて、フェア開催による会場周辺の交通集中を勘案、検討し、臨時駐車場を会場近隣に設ける。
- ・臨時駐車場は、博覧会やこれまで記念公園で実施されたイベント時に使用された実績のある県有地を有効利用し、整備コスト縮減に努める。
- ・平日、土休日の来場者数に合わせた運営形態を検討し、フレキシブルな計画による運営コスト軽減を検討する。
- ・駐車場運営については指定管理者との共同運営を検討する。

#### □円滑な誘導計画

- ・増加交通量による周辺環境への影響を考慮した動線設定、車両誘導を検討する。

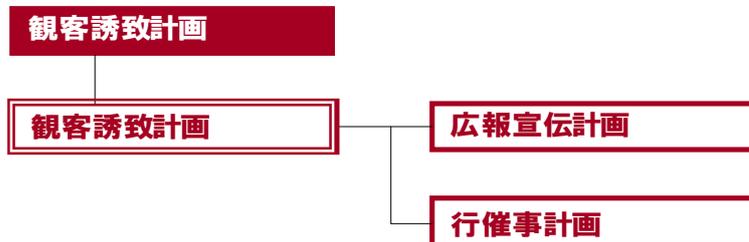
#### 8-4. 営業参加計画

- ・本フェアでは、会場で展開する飲食・物販も魅力の一つと捉え、積極的に展開する。
- ・愛知の食文化に触れる機会として、郷土料理やご当地B級グルメなど子供からお年寄りまで幅広い層に受け入れられる飲食サービスを展開する。
- ・また、「緑」と「食」のコラボレーションを基本に、会場内の多彩な緑の空間でサービスを満喫できる工夫、営業手法等を検討し、展開する。
- ・物販は、園芸王国愛知の力を十分に発揮した植物等の販売や郷土物産の販売を中心とした愛知らしい物販サービスを展開する。
- ・特に、植物等の物販サービスでは、会場内で植栽されている草花を積極的に販売するなど、生産者団体等との連携・協力により、フェアの「緑」が暮らしの中で再現できるように、そして、花卉産業振興への効果が期待される魅力度の高い物販サービスを展開する。

## 9. 観客誘致計画

### 9-1. 計画の基本構成

本フェアでの会場運営計画は、次の構成を基本とする。



### 9-2. 観客誘致計画

#### (1) 観客誘致の区分



#### (2) 基本的な考え方

本フェアの観客誘致は、次の基本的な考え方に基づき計画、展開する。

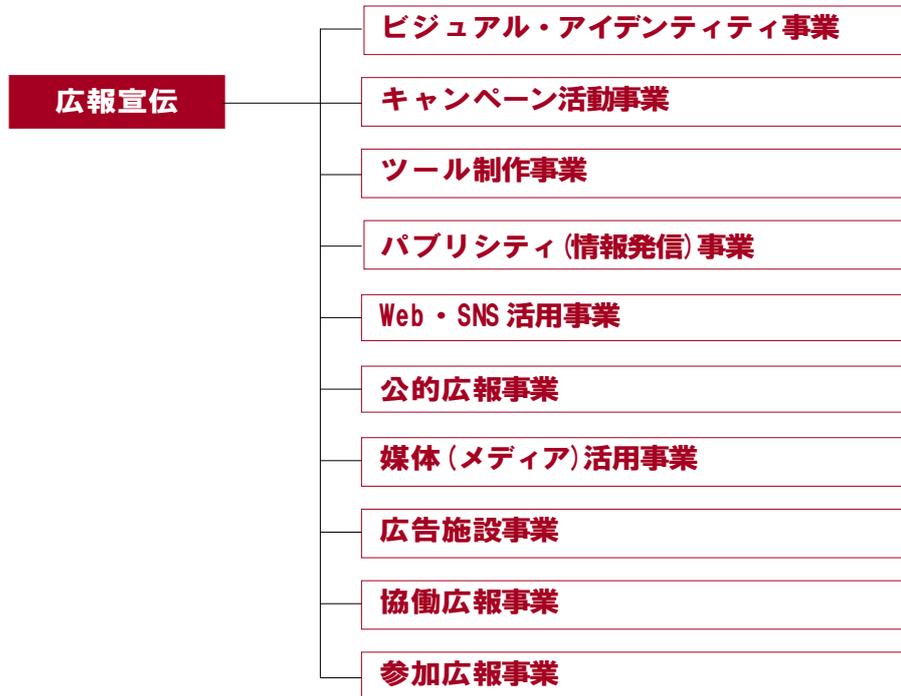
- ・ 観客誘致に対する意識を高め、様々なエリアやターゲットに対し、綿密な誘致方策を検討、展開する。
- ・ 緑化フェアでの基本となる「緑」に関心の高い各ターゲットの獲得はもとより、幅広い企業・団体・県民等の積極的な誘客を図る。
- ・ 愛知県の地域資源、観光資源を活用した誘客方策や交通機関を活用した誘客方策などを検討し、展開する。

#### 展開のイメージ

- ・ 市内及びフェアの各事業間において情報交換・共有し、既存のノウハウを活用できる環境、体制を整え、効果的な観客誘致を行う。
- ・ 特に観客誘致の基本となる広報宣伝事業と連動した、効率的な誘客を図る。
- ・ 愛・地球博記念公園内の指定管理者、公園マネジメント会議やパートナーなど既存ストックを活用した観客誘致を行う。
- ・ 様々な分野で展開されている県内の地域資源を発信する事業や各種キャンペーン等と連動した誘客方策、県内、近隣県、関西圏、首都圏に向けての観客誘致を行う。

### 9-3. 広報宣伝計画

#### (1) 広報宣伝の区分



#### (2) 基本的な考え方

本フェアの広報宣伝は、次の基本的な考え方に基づき計画、展開する。

- ・ 時期、集客エリア、ターゲットに対応するマーケティング型の広報を基本に、目的、効果を見極めた広報宣伝活動を展開する。
- ・ フェアの参加協働事業と連動し、多様な主体の参加協働によるきめ細かな草の根的広報宣伝を展開する。
- ・ フェア周知や観客誘致に終始するのではなく、フェアの開催目的や理念が浸透するよう継続的な広報活動を推進する。
- ・ 話題性のある事業と連携し、効果的かつ強力な情報発信を展開する。
- ・ 多様な情報交流をうながす情報インフラの整備等により、フェア後、緑のまちづくりに活用でき、活性化につながる広報を展開する。

## 展開のイメージ

---

### □マーケティング型広報の確実な推進

- ・ 広報の時期（準備段階、会期前、会期中）、集客エリア（会場周辺、県内、県外）、ターゲット（花や緑の愛好者、在住者種別、女性、ファミリーなど）など求められる情報を効果的な広報手法により確実に推進する。
- ・ 庁内及びフェアの各事業で得た情報を交換・共有できる環境、体制を整え、効果的な広報宣伝を展開する。

### □多様な人がつながるヒトメディア型広報

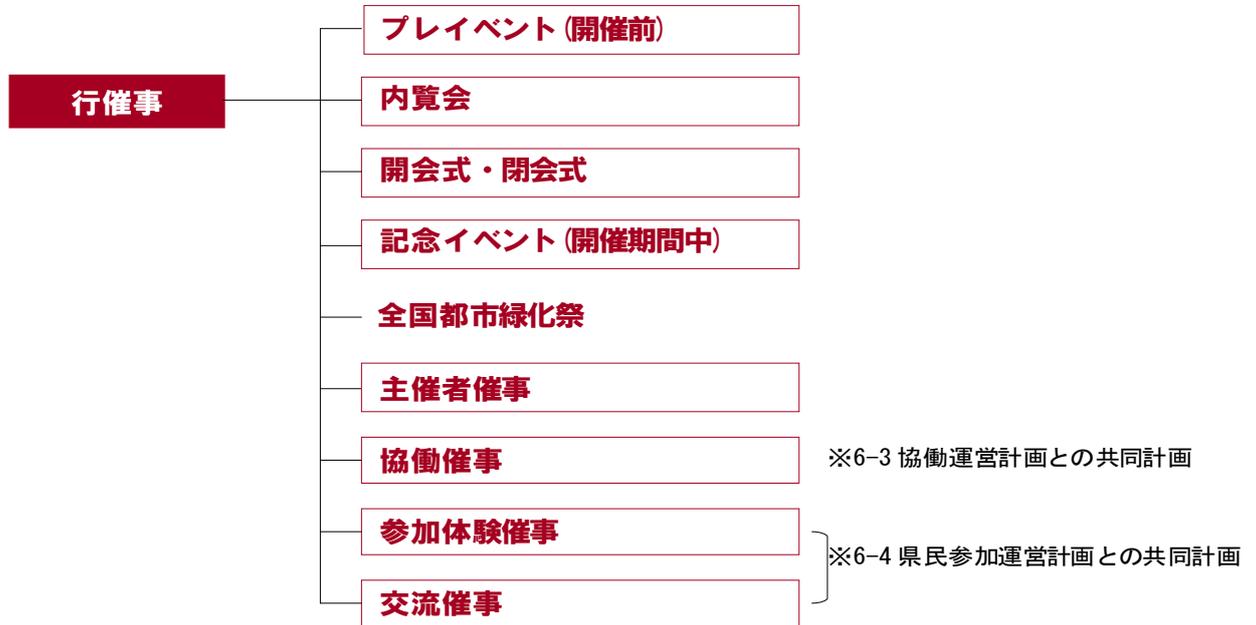
- ・ 早期から多くの県民の関わりによる SNS やクチコミによる情報の交流環境を整備し、計画段階から継続的な草の根的広報宣伝を展開する。
- ・ 協働や参加による広報事業を積極的に展開し、多様な主体の得意分野を活かした情報発信を展開する。
- ・ 各事業への参加者や多くの県民が各種広報活動（ニュースレター取材、PRキャンペーンなど）に参加できる環境づくりを行うことで、フェアのファンを獲得し、フェアの開催目的や理念が広く浸透するよう広報活動を展開する。

### □話題性のある事業、キャンペーン等とのタイアップ

- ・ 開催年までの愛知県内で開催される話題性のある事業やキャンペーン等とタイアップを図り、効率的かつ広域的な広報宣伝を展開する。

## 9-4. 行催事計画

### (1) 行催事の区分



### (2) 基本的な考え方

本フェアの行催事計画は、次の基本的な考え方に基づき計画、展開する。

- ・フェア開催周知、観客誘致を目的とした行催事、フェアを盛り上げ、緑の普及に寄与する行催事等、フェアの目標、基本理念を踏まえた戦略的な行催事を計画、展開する。
- ・誘致、広報事業と連動したフェア開催周知、観客誘致に向けた話題性のある催事を展開する。
- ・協働推進事業と連動し、フェアの計画に関わる多彩な人材、庁内のネットワークを活用し、フェアの理念、方針が浸透していく行催事を展開する。

# 10. 事業計画

## 10-1. 事業スケジュール

項目	平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度											
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
事業計画・設計・計画・設計・調整・整備・運営管理	基本構想策定			基本計画策定			協働推進実施計画 会場基本設計 展示実施計画 会場運営管理 交通輸送実施計画 観客誘致実施計画			協働運営・県民参加運営・担い手づくりの実施 会場実施設計 主催者展示調整及び運営 植物生産調達の実施・監理 会場運営管理の調整 交通輸送の調整 観客誘致・広報宣伝の実施・行権事調整 フェア会場整備工事			会場設計監理			撤去 復旧 工事			継続・継承		
	全国都市緑化あいちフェア			都市公園整備事業 (設計)			都市公園整備事業(整備)			都市公園整備事業			都市公園整備事業			都市公園整備事業					
都市公園整備事業				都市公園整備事業 (設計)			都市公園整備事業(整備)			都市公園整備事業			都市公園整備事業			都市公園整備事業					
手続き・運営体制				懇談会 大臣同意協議 実行委員会設立準備			実行委員会設立			実行委員会総会			実行委員会事務局運営			実行委員会総会 実行委員会解散					